

海外伝道ニュース

P.2 - 3

▶ 特集：the LEGENDS

ダニエル&ベンダ・マクレン師

北九州シオン教会・引退伝道者：力丸 嗣夫師

P.4

▶ 報告：2023・夏宣教体験ツアー

Mission Possible報告

▶ 報告：2022年度海外宣教献金・感謝

卷頭言

『 使命に従うチームとして 』

海外伝道部員：平松 崑 師



野 球、サッカー、バスケットボール等、チームプレーのスポーツは、プレーする側も、応援する側も一体感に満ち溢れます。作戦が功を奏し、得点が入ると一緒に喜び、失点すると、一緒にがっかりします。彼らは、勝利を得るために全力を尽くし、また応援する側も共に全力を尽くします。

先 頭に立つ者、支援・応援をする者が一體となる、という意味では、**世界宣教もチームプレー**です。全ての人が前線に出て行くわけではありませんが、全員が後方支援でも成り立ちません。それぞれの場所や役割が異なりますが、共有しているのは、「使命」です。

これまで、世界規模の宣教大会では、「Unfinished Task(未完の務め)」、「So all can hear(全ての人が福音を聞くことができるまで...)」などのテーマが掲げられてきましたが、昨年の大会では、「主の到来をただ待っているのではなく、福音宣教の完成に向かって私たちの使命を果たすことで主の到来を早めよう！」、と更なるチャレンジが投げかけられました。どの大会でも共通していることは、福音宣教の使命とその使命に携わるのは、「他の誰かではなく、私たち(全教会)である」ということです。

こ の使命には困難が伴います。宣教地に赴く者は、言語、異文化や習慣の壁にぶつかりますし、宣教師の家族にも大きな負担がかかります。宣教のためには経済的な扱い手も必要ですし、何よりも祈り手がいなくては宣教の働きは前進しません。今も昔も、「難しい」「大変だから」という理由は山のようにあります。にもかかわらず、宣教の働きは、困難を打ち碎く神の業によって前進してきましたし、これからもそうあり続けるでしょう。

大切なことは、「使命のために、出来ることに全力を注ぐ！」ということ、そして、「宣教は、出て行く人たちの足と、留まり祈る人たちのひざ、そして献げる人たちの手によって成し遂げられる」(宣教大会中のスライドから抜粋)ということです。

出て行く人、祈る人、献げる人、それぞれが福音宣教の“使命に従うチーム”として一丸となり、世界宣教のために力を合わせて参りましょう。



the LEGENDS

人生をかけて、異国の地・日本に来られた歴代の宣教師～レジェンド：立役者～。

その命がけの情熱によって、キリストと出会える恵みに預かっている現代の私達。

今回、日本で最も過疎化の進む地のひとつ・高知県西部幡多郡で日本人になりきって生活し、伝道を担って下さった〈ダネル・ベンダ・マクレン師〉をご紹介します。常に日本宣教を想い、高知～東北～北陸へと幾つも教会を生み出し、その後を日本人伝道者に委ねて…と、伝道を展開されたご夫妻です。

特集

ダネル&ベンダ・マクレン師

【マクレン宣教師との思い出】

北九州シオン教会・引退伝道者：力丸嗣夫師



福音の届いていない地での開拓

私が神学校を卒業して、母教会(父・力丸博の開拓した北九州シオン教会)に赴任して間もなく、病を患い、ほぼ半年床に伏せる毎日を過ごしました。最早この地での働きには向かない…と父の判断で、私はダネル・マクレン宣教師御一家が、日本で最も過疎で福音の届いていない地方の一つ、高知県西部幡多郡(3市10町村)に移り住んで、伝道を開始したばかりで、日本人の働きを求めておられる中村市(現在の四万十市：以降、旧中村市)の開拓に遣わされました。

着いたその日から、免許取り立てで、路上運転が初めての私に「さあ、今日は私たちの伝道圏の幡多郡全域(3市10町村)を視察に行こう！運転は力丸先生がしなさい。」なんと恐ろしい！私は路上運転が初めてなので…と弁明しましたが、「主が守ってくださるから、ここから始めなさい！」…大変な外人についてものだ！！と思いました。

限界集落に分け入って

出会いの最初から、日本人伝道者に絶対の信頼を置いて、私を前面に押し出しての働きが始まりました。マクレン師は「珍しい外人が来た！と人寄せであなたの働きを助けるのです。」これが、日本一過疎の地域を調べ挙げて選定した伝道地でした。

高知県西部のこの地域には、当時、おそらく西欧人は一人もいなかったと思います。車で限界集落に入り、車を草むらに置いて、丘陵地帯を二手に分かれて、戸別に文書を配布し福音を伝えお話をします。



左写真：マクレン師とベンダ夫人 ▶

右写真：左からマクレン師、夫人、3人の娘さん ▶

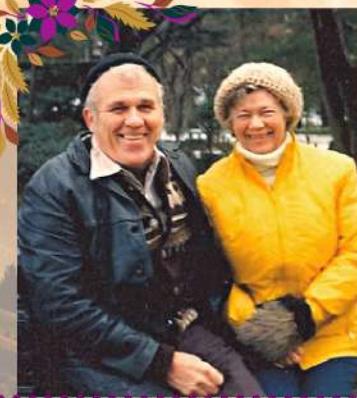
朝8時に家を出て、帰り着くのは夕方6時頃。今日は2人別々に回って合計18軒、という時もあった過疎です。教会に人々が来ることはできないから、一度の訪問伝道でそのままイエス様を信じて、毎朝晩にイエス様に祈る日々を過ごすこと、そのような導きを積み重ねました。

実はこの地方は、仏教や神社神道の習慣や風俗、葬儀、結婚式の窓口で、彼らの信仰は天地宇宙をお創りになった神への崇敬を心の奥に持つ自然信仰だったのです。それだけに、天地創造の唯一の神を現実にいますお方として示すことと、罪や汚れを洗い聖くしてくださるお方《イエス・キリスト》を示すことは、受け入れられやすい状況でした。その様な中から、いつしか部落集会が不定期に開かれるようになりました。

ある時、町から旧中村市の最も深部まで行こうとある部落(大用/オオユウ)を通過していると、段々畠の奥から「主にすがる我に悩みはなし」と、高原の涼しい風に乗って、讃美歌が聞こえてきて思わず車を止めて、鍬や鎌を手にする方達に手を振りました。大用集会のメンバーでした。

このように、マクレン先生の存在は、いち早く、高知県西部地区(高知県の3分の一を占める)で、知らない人のない存在となり、マクレンご一家、可愛い3人の娘さんと、いつもにこやかで美しいベンダ夫人は地域の宝となりました。





【ダネル&ベンダ・マクレン宣教師】

出身国：アメリカ

日本での宣教活動：1954年～1992年



マクレン師ご家族

【マクレン師ご夫妻による開拓】

1965年～ 中村福音キリスト教会 伝道開始。力丸師へ

1966年～ 土佐清水伝道所（のち、土佐清水キリスト伝道所）伝道開始

1968年～ 須崎福音キリスト伝道所 伝道開始

1972年～ 山形神召キリスト教会 伝道開始

その後、東北諸教会の働きを応援

[参考文献] 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団(1999).『みことばに立ち、御靈に導かれて～教団創立50周年誌～』.日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団・教団史編纂委員会.ペーテルフォト印刷株式会社.

土佐清水～下ノ加江～須崎～東北へと

私が結婚して、新たに中村に赴任して間もなく、マクレンご一家は中村に来られました。一年も経たないで、次の伝道地・土佐清水市に居を移されて、そこで新しく開拓を始められたのです。その一年後、伝道者が派遣されると、すぐにその方に全てを委ねて、下ノ加江という純農村の空き農家を借りて、家についている畑を家族で耕し、自ら下肥を汲んで、野菜の栽培を農家の方に教えていただきながら、土地と人々の心を耕しては、実りを刈り取っておられました。

土佐清水・中村の働きが順調に進んでいるのを見計らって、下ノ加江から高知に近い須崎市へと伝道の拠点を移され、休む間もなく、高知県西半分に3つの教会の土台を築かれたのです。いつも穏やかで、よく祈り、伝道のこと以外に話題を提起することもなく、私の伝道者生涯に、強固な土台を築いていただいたことを忘れられません。

高知県の働きを委ねると、次のターゲットは東北でした。東北でもいくつもの教会を生み出し、更に次の展開は北陸…日本の伝道者が走って追いかけなければついていけない勢いで、働きは次々と展開、北陸でも幾つもの教会が生まれました。

引退後もなお輝く、宣教の足跡

日本を離れ帰国された先生を二度尋ねましたが、日本の教会、特に四国、東北、北陸の様子を聞かれ、共に祈りました。そんな時のご夫妻からの目は輝いて、乗り出すようにして耳を傾けておられました。宣教師としての現地での働きは、制度上、引退されていましたが、折に触れて、かつて鍬を入れた地域へ太平洋を越えて訪問され、伝道者を励まし、信徒や地域のつながりを確認するように、旧交を温めては帰国されました。

1985年から、私は毎年、台湾の原住民伝道で山岳地の教会を巡回しましたが、

まだ当時は車で入れる所は限定され、基本的には殆ど徒歩で奥地まで踏み分けるような働きでした。ところが、奥地に入って行くと、そこにはマクレン宣教師が伝道巡回に入っている地区でした。私がマクレン師と共に働いていたことを知ると、先住民の方は驚き、私に対する対応が驚くほど丁重になつたのでした。この地でも、マクレン宣教師の働きは、原住民が普段使っている寝床を空けてくれるままに、その夜具にくるまり、現地の食べ物（犬・猿・蛇・山の果実・台中で売られている魚の刺身等）を喜んで食し、現地の人と全く同じ生活をしながらの巡回でしたから、尊敬されていました。

当時、原住民のために来られていた宣教師は他にもいましたが、誰一人、原住民の家には泊まることなく、日帰りできる所ばかりで、食事は缶詰を持参し、現地のものは何一つ口にしないと、人々は悲しんでいました。マクレン宣教師は日本語ができるので、直接コミュニケーションができ（当時、40代以上の殆どの方は日本語ができた）、福音は直に伝えられていたのです。

マクレン師のお子様である、サッチャン：メアリー、ルッチャン：ルツ、ノニ：ナオミ、私たち夫婦がそのように呼んでいた三人娘。午前は地元の小学校に通い、午後はベンダ先生が教師となって米国のカリキュラムに沿った教育をしていました。沢山のお友達ができるので、溢れるほどの子ども達が教会学校に集まっていました。

今はそれぞれ、海外宣教、教会奉仕者として、ご両親の信仰を受け継いで、しっかりと主の証人として主に仕えておられます。私の伝道者生涯はマクレン師ご夫妻に負うところが大きいと感じています。

お詫び：前4月号の記事にて誤りがありましたのでお詫び申し上げます。

訂正版を教団ホームページに掲載しております。

■ p.3 左側下から2行目～「1953年、100坪の土地に上高田教会が」

：誤「上高田教会」→正「高円寺教会」

■ p.3 上段・マリア宣教師の略歴。「1954年 山脇師就任と共に～」

：以下の文を追加「『志村キリスト教会』の会堂を建設。」



報告 :

宣教地を見る! 御業を知る!! 2023・夏 宣教体験ツアーアー

この8月、台湾・フィリピンそれぞれの地へ、全国からの参加者の皆さんと共に
宣教体験ツアーアーを行うことが出来ました！たくさんの恵みの一部をシェアいたします。



台湾・台北ツアーアー

8月4日~11日

12名の参加者が与えられ
台湾神愛教会の方々との交流、
路傍伝道や伝道集会、大安
部落での活動を行いました。

[引率者：藤村 良彦
チュアめぐみ]

青森ジョイフルチャペル

▷ 濵谷 友光 伝道局長
台湾宣教を実際に目のあたりに
見て感動の8日間でした！

▷ 濵谷 真衣神学生
同世代のリーダたちの活躍に励
されました。ツアーメンバーの
これから成長も楽しみ！

藤沢オリーブチャペル

▷ 小澤 美鈴
鶏が血を流す様子に、イエス
様の十字架を理解でき心に深
く迫られた経験でした。

▷ 藤村 聖夜
いろんなことにチャレンジ
できてよかったです。



すわシオンキリスト教会

▷ 高見澤 みちる
2回目の参加ですが、全く違
った体験が与えられ感謝。

須崎福音キリスト教会

▷ 柿谷 悟 牧師
陽子先生ご夫妻の原住民に対す
る深い愛が伝わりました。孫と
参加でき感謝！

▷ 杉山 日向子
中国語を教えてもらい楽しかった。
友人を誘って参加したいです。

新居浜福音キリスト教会

▷ チュア・ケリス
まるで1か月くらいの濃厚な祝福
の体験でした。

▷ チュア・ハンナ

たくさん優しい弟子訓練
ができてうれしかった。

▷ チュア・トニー
すばらしい弟子訓練
に感動しました！

Mission Possible 報告！
～9.10 開催しました～

新居浜を会場にZoomとのハイブリッドで開催！

濵谷伝道局長とジョイス部員と共に、子ども達からシニアまで
約30名が〈台湾風かき氷〉と〈台湾ネギパイ〉を食べながら、
台湾＆ダバオツアーアー参加者の証しと濵谷局長のメッセージに
耳を傾け、世界宣教のため祈りました。感謝！

フィリピン・ダバオツアーアー

8月4日~11日

5名の参加者と、関本師の活動
拠点のプリスクールやダバオの觀
光名所を回りました。日曜日は、
TLEA教会とCross Lord教会での
礼拝に出席し、証しや特別賛美、
メッセージの奉仕をしました。
国や言語を超えて、同じ神様を礼拝する
大きな恵みを味わいました。 [引率者：安間 正道]

【奥谷 祐子 Okutani Yuko：教員・竹原ベテルキリスト教会】

5年前の台湾に続いて、フィリピンツアーアーに参加させていた
いたいことを感謝します。国や暮らしが違っていても、同じ神
様を抱いているという幸せ。訪問先の教会で女性達から「日本
でクリスチヤンは1%と聞いたが本当か？」等、次々と質問が
ありました。最後は皆で私の為に祈ってください、その事を思
い出していつも温かい気持ちになっています。

海洋民族のバチャウ族の教会で、皆さんに手を置いて祈る
いう機会を与えていただきました。私の様な拙い者の祈りを涙
を持って受けてくださり、人々の敬虔さと、祈りが共通の言語
であることを知りました。

これから、いつも温かい思いでフィリピンの人々を思い起し、
フィリピンのために祈り続ける、そのように自分の祈りが
変えられたことを感謝します。ありがとうございました。

【新谷 宣愛 Shintani Noa：大学生・南紀キリスト教会】

今回の宣教体験ツアーアーを通して、改めて神様の愛を実感する
ことができました。また、遠く離れた地で宣教している関本先生
の働きを現地で見て、福音を伝える大切さ、難しさを学ぶこ
とができました。

特に印象に残っているのは、バシャオ族への訪問です。フィリ
ピンで一番貧しい民族ですが、神様を求めて祈っている姿を見て、
私も重荷をもってバシャオ族また日本のリバイバルの為に祈
うなければならぬと思いました。神様に栄光をお返します。



Cross Lord教会にて

報告 : 2022年度海外宣教献金

北海道教区

紋別・北見・名寄・神居・岩見沢
札幌神召・山手町・千歳・帯広・函館

東北教区

青森・盛岡・山形・米沢・牧場の朝
仙台・泉・福島・信愛・郡山・東松島

関東北東教区

結城・熊谷・サンライズ・ベテル
志村・十条・神召・中央聖書
中央福音・東京シティ・新潟
北越谷・江戸川台・新松戸・市川
千葉・あすみが丘・小岩・匝瑳
元加治・丸子町・めぐみ福音

関東南西教区

新中野・シャローム・多摩川
八王子・東浅川・甲府・川崎
多摩ヒルサイド・エヴァグリーン
溝ノ口・篠原・港南・金沢
シティビジョン・鎌倉・藤沢

東海教区

富士宮栄光・駿河・浜松・浜松北
豊橋・豊川・岡崎・桶狭間
名古屋・天塚・岐阜・大垣

北陸教区

入善・氷見・金沢聖書・松任
福岡町・黒部・富山・小矢部

関西教区

大津・七條・門真・神愛
都島・大阪中央・岸和田
平野・堺・泉佐野・尾崎
南紀・御影・明石・西宮
三木・伏見

中国教区

竹原・広島神愛・宇部
せとうち・松江

四国教区

今治・新居浜・徳島・高知
中村・土佐清水・阿南

九州教区

下関・北九州・福岡・唐津・希望ヶ丘
熊本聖書・川尻・シャロン・本渡
人吉・佐伯・蒲江・海老津・百道

沖縄教区

沖縄中央・嘉手納・沖縄神愛
那覇・沖縄ブレイズ

個人・その他

横山あかり・岡本久恵・山本努
松嶋あけみ・牧野孝一&直美
赤井麻貴子・Taniuchi Gloria Maru
ネイバーフッド・つくばI.C.A
横田I.C.A・I.C.A東京(順不同・敬称略)



日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド 教団
海外伝道部
J.A.G. World Mission Department

発行月：2023年11月

発行元：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 海外伝道部

部長：長澤牧人 / 部員：チュアめぐみ・平松巖・北野ジョイス・安間正道

編集：安間正道 / デザイン：アンマトキコ / 印刷：(株)プリントパック